

# 平成 25 年度「首里高校内中城<sup>うどうん</sup>御殿跡」発掘調査 現地説明会

沖縄県立埋蔵文化財センター

首里高校内中城御殿跡は、沖縄県立首里高等学校（那覇市首里真和志町 2 丁目 43）のグラウンド部分で発見された遺跡です。

## なぜ遺跡だとわかったの？

現首里高校の校舎が老朽化したため、現在のグラウンドに新校舎の建設が計画されました。事前の試掘調査で、一直線に長くのびる石積みやたくさんの遺物がでてきたことから、遺跡が良好な状態で残っていることがわかりました。そのため、人力で少しずつ発掘し、遺跡の様子をきちんと記録することが必要になりました。

## どんな遺跡なの？

今から約 300 年前に描かれた「首里古地図」という絵が残されています。この絵と照らし合わせてみると、新校舎建設の計画された場所が中城御殿であることがわかりました。

## 中城御殿ってなに？

中城御殿とは、次の琉球国王となる世子が暮らした邸宅のことです。名前の由来は、王子が王世子（王位継承者）になると、中城間切を領地としたことから、中城王子あるいは中城御殿と呼ばれたことにあります。

## 新旧の中城御殿

最初の中城御殿は、1621 年～1640 年ごろに現在の首里高等学校敷地内に造られましたが、1875 年（明治 8 年）に旧県立博物館跡地の新しい中城御殿に移転しました。

## これまでの調査成果は？

これまで、遺跡の範囲を確認する試掘調査が行われています。限られた範囲の発掘調査でしたが、石積みや石列などの遺構が確認されました。非常に保存状態がよいことがわかっています。



首里高校内中城御殿周辺航空写真 (国土院地理院数値航空写真 2010 年撮影 C 11-12)



首里高校内中城御殿周辺航空写真 (戦前撮影)

平成 25 年度の調査成果は？

平成 25 年度の調査では、グラウンド全体を調査しています。部分的に確認されていた石積みや石列の大きさや長さなどの全容が少しずつわかってきています。建物のあった場所や、水場などの場所がわかってきました。

また、一部では、中城御殿よりも前の時期に作られた柱の穴なども見つかっており、中城御殿が創建される以前の様子もわかるかも知れません。



写真2 水場遺構

井戸の前には、きれいに石が敷かれています。水を排水するための溝もあります。



写真3 出土した「寛永通寶」

約 400 年前から铸造され始めた銭貨です。



写真4 石積み遺構

調査区北側にある石積みです。首里古地図にある石積みだと考えられます。

残された遺跡の謎と今後の調査の予定

写真1の石積みは、首里古地図に描かれた北側部分の石積みである可能性があります。しかし、写真2は首里古地図には何も描かれていない場所から発見されました。首里古地図が描かれたときにはなかったのか？それとも絵を描く人がこの場所をみるることができなかったのか？など、たくさん謎があります。

今後の調査成果と合わせながら謎を解明していく予定です。

今後の発掘調査期間は、平成 26 年度末を予定しています。ようやく中城御殿の一部が顔を出してきました。これからも丁寧に発掘を進め、当時の中城御殿の様子の把握に努めたいと考えています。



1,700 年代に描かれた「首里古地図」 沖縄県立図書館所蔵



写真1 石積み遺構

この石積みの上には屋敷の跡が残っています。基壇として使われていたと考えられます。



写真5 石組み遺構

石で四角形に組まれた遺構です。中からは、ニービ（微粒砂岩）やタイ産の壺などが見つかりました。

